

平成28年8月4日

各位

東京女子医科大学附属八千代医療センター 第2病棟竣工、救命救急センター指定

Point

1. 地上5階建て139床の新病棟（第2病棟）が8月1日に開床しました。
2. 8月1日付で救命救急センターの指定を受けました。
3. 第2病棟には、救命救急センター（ICU）のほか、脳卒中ケアユニット（SCU）、がん病棟等を設置しました。
4. 第2病棟屋上にヘリポートを設置しました。



このたび、東京女子医科大学附属八千代医療センターの第2病棟が竣工いたしました。

第2病棟は地上5階建てで、棟内には救命救急センター（ICU）、脳卒中ケアユニット（SCU）、がん病棟を設け、さらに、屋上にはヘリポートを設置し、救急救命だけでなく、大規模災害にも対応できるように、地域のニーズに応えるべく設備の充実をはかりました。

第2病棟は8月1日に開床しました。144床が増床となり、八千代医療センターの全病床数は501床となりました。今後は、これまで以上に地域の期待を担うべく、医療の充実を図り、東京女子医科大学の附属医療施設として、安全で質の高い医療を目指して参ります。

【建築物の概要】

建物の名称	八千代医療センター第2病棟	建築敷地	八千代市大和田新田字向山477-96他
建築面積	増床棟：2,107.18㎡		(全体：12,510.60㎡)
延床面積	増床棟：6,991.40㎡		(全体：48,946.07㎡)

東京女子医科大学附属八千代医療センター

病院長 新井田 達雄

【別紙】

＜今までの救急医療に対する取り組みと救命救急センター指定後の運営方針＞

当院は八千代市を中心とした地域の基幹病院として、救急医療の中核を担うことを目的に誘致されました。当院が救急医療を行う上での最も大きな特徴は、成人だけでなく、小児、妊産婦、新生児などあらゆる重症患者に対応できることです。

成人 ICU は 12 床あり、ME センター(※注1)の協力のもと、人工呼吸器や各種血液浄化療法はもとより、IABP、PCPS (※注2) など様々な人工臓器を駆使した集中治療を行うことができ、救急車で来院した脳卒中や急性冠症候群、多発外傷や敗血症性ショックなど、内科系、外科系を問わず多くの重症患者に対応してきました。小児や妊産婦の ICU (PICU 6 床, MFICU 6 床) では、専従スタッフとともに、八千代市内だけでなく県内幅広い地域から最重症の小児、妊産婦患者さんの受け入れを行っています。また、小児専門医が成人救急科にローテーションをしたり、重症妊産婦症例の際は救急外来において救急科と母体胎児科が協力して診療を行ったりと、他科どうしが密接な連携をしながら救急医療に取り組んでいます。

第2病棟竣工にあたり屋上にヘリポートが設置されたことから、今後は重症患者の増加も予想されますが、これまでの取り組みを軸に、さらに高いレベルでの診療を行うことができるよう研鑽を積んでいきたいと思えます。

また当院は地域の一次、二次病院としての役割も担っており、これまで八千代市の夜間救急急病待機医として、週3日を担当してきました。担当日の応需率は90%を超えており、さらに非担当日においても、市内の担当病院で対応できない症例については、そのほとんどの症例を当院で対応しています。

これまで“八千代市及びその周辺地域の救急医療の安定化に貢献する”という目標を掲げ、三次対応が必要な重症度・緊急度の高い救急症例、二次医療機関で対応困難な症例は原則全て受け入れてきました。また、二次対応が必要な救急症例については、地域の二次病院で対応可能な症状・時間帯であれば二次病院で対応していただき、対応不能の場合は当院で受け入れる、という方針で活動してきました。病床数の問題から全て方針通りというわけにはいきませんでした。新病棟開床、救命救急センター指定により、救命ICUと救急専用の一般病床が増え、これまで以上に受け入れが可能となります。

救命救急センター指定後もこれまでの方針を変えることなく重症・緊急対応を行っていきます。一次、二次救急については、適切な診療を適切な病院で迅速に受けられる地域全体の仕組みを作り、そしてその仕組みを維持するために貢献することが当院の役割と考えています。

地域の休日当番医や二次当番病院の先生方が安心して診療できるためのバックアップを行い、地域の救急医療体制をより安定させることができるよう、病院一体となって活動していく所存です。

※注1 ME センター：臨床工学機器センター

※注2 IABP：大動脈内バルーンパンピング / PCPS：経皮的心肺補助装置